



# ひるの星

No. 262

もくじ	
アブドル・バハの言葉.....	2
犠牲.....	3
クイズ.....	8
ぬり絵.....	9
絵.....	10
みんなの写真.....	11
保護者のページ.....	12

ぎ せい  
犠 牲 とい う

ち あし ふ い かげ  
地 に 足 を 踏 み 入 れ ない 限 り、

ひと い か おんけい  
人 は 如 何 な る 恩 恵 も

おんちよう う  
恩 寵 も 得 る こ と は ない。

そしてこの

ぎ せい ち じ こ  
犠 牲 の 地 は 自 己 を

りょうど  
な く し た 領 土 で あ り、

かみ こうごう  
そ れ に よ っ て 神 の 神 々 し さ が

かがや で  
輝 き 出 る よ う に な る。」

アブドル・バハ

## 犠牲

子どもたちが、テレビの前で、「エイブの冒険」というビデオ・ゲームで遊んでいました。意地悪で手強い主人から地下牢に閉じ込められたエイブという奴隷を自由にするゲームです。数週間も前から、そうなるように、そのゲームで遊んできました。地下牢は本棚のようになっていて、出入り口は一番上の段にあります。どの段にも手強い相手の怪物が監視しています。子どもたちは一番下の段からエイブを連れ出すのには、成功しました。出入り口に向かう途中のどの段からも、数人の仲間の奴隷がエイブについて抜け出すことができました。エイブたちが出入り口のある一番上の段まで来たとき、子どもたちがみんなテレビの前に集まって、画面に釘づけになりました。エイブが自由になれば、そのゲームは子どもたちの勝ちとなります。その時が来ました。ファンファーレが鳴って、子どもたちが勝ちどきの声を上げました。するとその時、4人の天使のような老人たちが地下牢のある山の上の雲にのって現れました。そして宣言しました。

「エイブよ、おまえは意地悪な主人から逃れられたけど、自分の仲間たちのことを忘れてしまっている。まだ牢に残されて苦しんでいる仲間を置き去りにしているのではないか。自由になったのは、ほんの数人ではないか。我々はそれを許すことはできないぞ！もう一度一番下の段の牢に戻りなさい。おまえが助け出されたように、残りの仲間を助け出してやりなさい。」

子どもたちはエイブを牢に戻して、また始めからゲームをやりなおすことになりました。みんなテレビの前で戸惑いながら、顔を見合わせました。お母さんがいつの間にか子どもたちの後ろに立って、笑い出しました。みんなびっくりして、後ろを振り向き直しました。

「あら、みんな、そのゲームは、できるだけたくさんの奴隷を自由にするというのがルールだとは知らなかったの？」

「そうだよ。誰もそんなこと教えなかったんだから！」と、リアズが不服そうに言いました。「おれたち、エイブを連れ出せば、それでいいと思っただけだ！」

「そうよ！」と、シャラが付け加えて、「エイブの冒険なんだから！他の誰かの冒険とちがうんだから！」

すると、アスマが、「それでもやっぱり、老人たちが言うように、エイブが危険な目にあっても、その冒険が長く続いたとしても、できるだけたくさんの仲間を助け出さなくちゃ！」と、声を大にして言いました。「それがルールだと分かったから、今度はそのルールでゲームに勝ってやるぞ！」



「そのゲームは私たちの人生と同じね。」と言って、お母さんが笑いました。「私たちは自分の人生を幸福にしようとするだけで夢中になりがちだけど、本当の生き方は、自分よりできるだけたくさんの人を幸福にするようにすべきです。たくさんの人が人生の終わりまで、それに気づかずにいるのよね。みんながゲームの終わりまで、そのルールに気づかなかつたようにね、」

シャラが首をかしげながら言いました。「わあ！ただのゲームが私たちの人生の生き方のお手本になるなんて！私たちはまだ子どもなのに、たくさんのお大人が気づかないことを習ったわけね。」

お母さんが続けました。「エイブは、自分ひとりが自由になるのではなくて、それよりも仲間の奴隷を自由にして喜ばせなくてはいけないのよ。欲しいものがあるけど、それより、もっと欲しいもののために、それをあきらめることを犠牲というのよ。」

「そうか、わかった。」と、リアズが答えて、「今、持っているお金を使いたくないけど、それよりももっと欲しいアイスクリームのために、そのお金を使うというのが、犠牲ということかな？」

「そうね、それも犠牲のひとつだけど、もっと心を使う、たとえばないかしら？」とお母さんが聞きました。

「それでは。」と、アスマが言って、「おれ一人でゲームを楽しみたいけど、おれたちきょうだいで譲り合って楽しむというのは、どうだい？」

「私にも、いいたとえがあるわ！」と、モナが言って、「友だちにもらった今まで食べたことがないような、おいしいお菓子があるんだけど、自分ひとりよりも、もうひとりの友だちにも分けてあげて、喜ばせるというのは、どうかしら？」

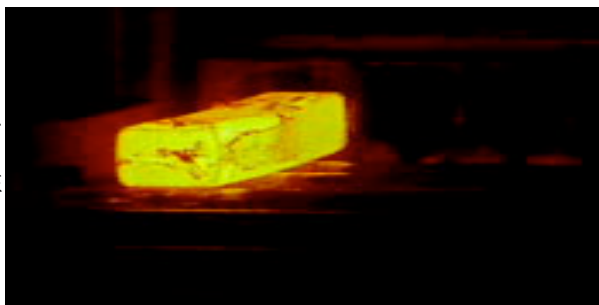


「さすが！みんな、犠牲の意味が段々と理解できてきたようね。あともう少し。」とお母さんがほめて言いました。「ゲームにレベルがあるように、犠牲にもレベルがあるのよ。自分のため、他の人のため、世のため、神への愛のためとかがあるのよ。愛のためには、すべてを犠牲にするという、レベルの高い犠牲について、アブドル・バハが説明されています。炎への愛のために自分を犠牲にする、蛾とろうそくの話がされています。蛾は自分を焼き尽くすほど、ろうそくの炎の明るさを愛します。そして、ろうそくは光を放つのに自分の命を投げうって溶けてしまうほど、炎を愛します。」

「わあ！」と、リアズが叫んで、「それって、すごすぎな

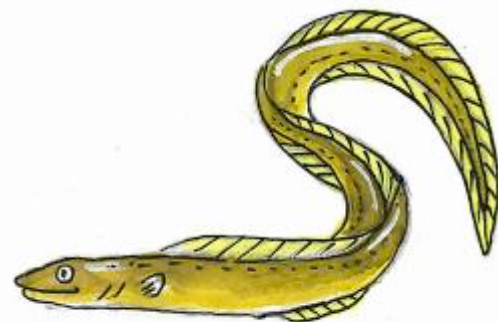
いかい！」

「私、そんな犠牲をする人の話を聞いたことがあるわ。」と、モナが言って、「子どものためにした、お父さんお母さんの犠牲の話とか、友だちが友だちのために命を投げ出す話とか。」



アスマが付け加えて、「それと、消防士さんが火事場の人を助け出すときの犠牲の話も。」

お母さんが続けて、「もうひとつ、アブドル・バハが、自分の性質をすてて、自分が愛する人の性質を受け入れるという、犠牲の説明をされています。濃くて黒い、冷たくて固い、鉄のかたまりを火に入ると、火によって鉄の性質は変わります。それは明るくて赤い、熱くて形を変えるほどやわらかくなります。言いかえれば、火の性質になります。」



「だったら、私たちが犠牲になれば、赤くなるっていうこと？」と言って、幼いアニサがため息をつきました。みんな驚いて、アニサを見て笑い出しました。



「アニサ！おまえがここにいたなんて、すっかり忘れていたよ！」と言って、リアズが笑いました。

「いいかげんにしてよ！リアズ！」と言って、幼いアニサはひざを手で叩きながら怒りました。それを見て、みんなもっと大声を上げて笑いました。

「今のアニサは、お母さんがリアズに怒ったときと、そっくりね。」と言いながら、モナがアニサを抱き寄せて、「みんながアニサを笑ったのは悪い。アニサ、アブドル・バハのたとえはね、もし私たちが親切で、やさしくて、気前のいい人を好きになれば、その人と同じように私たちもなるということなのよ。そうでしょう？お母さん？」

「そのとおり、ありがとう、モナ。」と、お母さんがほほ笑んで、「それでは、どんな犠牲を毎日の生活に使ったらいいかしら？、夜おそくまで起きていたいけど、お父さんやお母さんが言うことを聞いて寝るといのはどうかしら？」

「そうだね。」と、アスマが深く考えながら、「それを考えると。おれたちが習っている美德はすべて犠牲ということになるね。今お母さんが言った、従うこともそうだし、犠牲がなくては親切も、気前の良さも、許しもなく、どんな美德も成り立たないなあー！」

「すごい！」と、リアズがため息をついて、「犠牲はすべての美德に必要なだ！」

お母さんが驚いて、「実際、犠牲が美德に必要なのは、アブドル・バハが種を例にして話されています。種は自分を引き裂いて樹木が成長するように、自分を壊していきます。だから、種のように、私たちもみんな美德を身につけて、自分の魂が成長するように、自我、つまりわがままをすてなければいけません。でも、みんなすごい！感心したわ！バハオラ

が言われたように、本当にみんなは新しい人種だわ！」そう言われて、子どもたちはみんな、にっこりしました。

アスマが、「ところで、みんな、供養という日本の風習をどう思う？これも犠牲と関係があるとと思うけど？」と、アスマが聞きました。

「そう言えば、その供養という行事を見たことがあるよ。」とリアズが言って、「あなご料理を商売にしている人たちが一年に一度、犠牲になったあなごを慰めるために、その子どもをふるさとの広い海に返してやる行事なんだ。」

「へーえ、そーう。育ててお金にすることもできるのに、それを犠牲にして、あなごとそれを創られた神様に感謝の気持ちを込めて海に返しているのね。」と、お母さんが考えながら、続けました。「その供養という行事は、ちょうど寄付と同じね。元々すべては神様のものだから、少しだけ感謝の気持ちを込めてお返しもしているのね。」

「供養という行事も犠牲なのね。」とモナが言って、「エイブに犠牲がなかったおかげで、いろいろな犠牲をこれまで習ったわけね。」

「あ！犠牲がないといえば、思い出したわ！子どもクラスで仏様のお話に、犠牲がない男のお話があったわ。」とシャラが言って、「おぼえている？みんな？『くもの糸』というお話よ。」

「ああ！思い出した！」とリアズが言って、「カンダタという悪い奴が一度だけいいことをしたんだ。いつものように悪いことをして逃げる途中、足下のくもを踏まないようにして助けたんだ。でも、悪いことばかりしてきたから、亡くなったとき地獄へ落ちたんだ。ただ、一度だけ善いことをしたので、仏様は地獄へくもの糸を垂らしてカンダタを助けようとしたお話だ。」

「そのつづきは、おれに任せて！」とアスマがうれしそうに叫んで、続けました。「カンダタは糸につかまって天国に向かってよじ登り始めたんだ。すると、他の人たちもカンダタの後に続いたんだ。カンダタは驚いて糸が切れるのを恐れて、他の人たちを揺さぶり落とそうとしたんだ。」

再びリアズが続けて、「すると、どうだろう。糸が切れてカンダタもろともみんな、また地獄へ落ちていったんだ。独りよがりな犠牲を理解できないカンダタを、仏様は悲しまれたんだ。カンダタがしたのは、ちょうど最初のエイブと同じだね！」

「それって、私たちのことよ！」とモナが言って、「私たちがエイブを動かしたんだから！」

お母さんが続けて、「犠牲についてのまとめとして、みんなに、笛のようになってもらいたいよ。笛は何でできていると思う？」



「金!」「竹!」「木もある!」と、モナ、アスマ、リアズがほとんど同時に答えました。

「いろいろあるわね。それにはみんな穴があるけど、中には何があるかしら?」

「何もないに決まっているじゃないか!」と、リアズが叫びました。

「大事なものは、それなのよ。中が詰まっていたら、良い音色が出ないのよ。同じように、

私たちも自分を空にしないと、神様の息吹が通らなくて、善い行いが出てこないのよ。自分を忘れる純粋な心がけでなければ、犠牲にはならないのよ。犠牲とは、自分より、愛する人のために、その人が喜ぶようにするのよ。そして心がけが純粋であるほど、より良い結果になります。」

モナが首をかしげて考えながら、「自分が犠牲になったと思っているうちは、犠牲にはならないのね。。。。。。とにかく自分を忘れて相手が喜ぶようにするのが、本当に犠牲になるのね。」

「そのとおり!すばらしい!さすが、バハイの子だ!」と、お母さんがほめました。

「ところで、かわいそうなエイブはどうなるの?」と、アニサが聞きました。

「そうだ、エイブとその仲間たちを、みんなで助け出さなくちゃ!」と、テレビの方を向きながら、リアズが叫びました。

「ちょっと待って!お家にいるのは、これくらいにしましょう。」と言って、お母さんがほほ笑んで、「外に出て遊んだら、どうなの?エイブたちを助け出すのは、明日にしたら?」

「オッケー!鬼ごっこしようぜ!おれ鬼抜けた!」と、リアズが叫びました。

「おれも!」「私も!」「私もよ!」と、アスマ、モナ、シャラが一斉に続けました。

「ア-ン!また、私が鬼になっちゃう!いやだ!」と言って、アニサが泣き出しそうになりました。

「わかった、アニサ、おれが鬼になってやる!」と、リアズが言いました。

「その調子!いいわね。犠牲とは何か、本当にわかったようね。」と、お母さんがうれしそうに言いました。みんなでゲームを片づけて、晴れ晴れとした気持ちで、外にとび出していきました。



## クイズ



1. お話の始めに、子どもたちは何をしていましたか？

---

2. エイブに何が起きましたかそれは何故ですか？

---

3. ゲームが人生のようだとは、どういうことですか？

---

4. 犠牲とは、どうすることですか？

---

5. 鉄は火に入れると、どんな性質になりますか？

---

6. 鉄は火に入れると、どんな性質を犠牲にしますか？

---

7. 笛の中には、何がありますか？

---

8. 私たちはどうしたら、笛のようになりますか？

---

9. 地獄から自分の後続く人々を見たとき、カンダタはどのような態度をとるべきでしたか？

---

10. 最高のレベルは、どんな犠牲ですか？

---

どうでしたか？ 全部答えられましたか？ 答は保護者のページにあります。





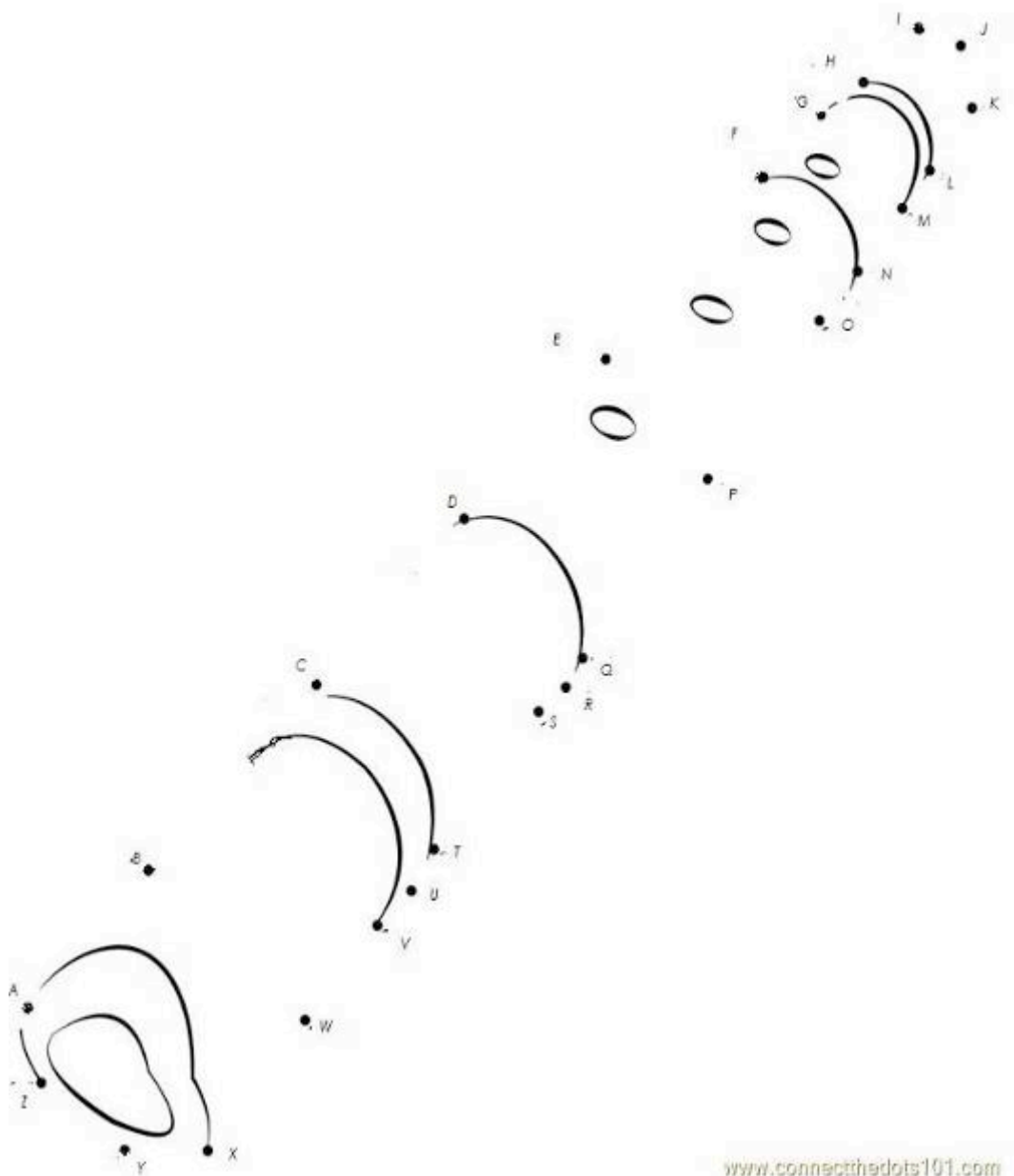
# ぬり絵

A から B、

B から C へと、

点を結んでいくと、何が見える？

絵が出てきたら、色をぬってみましょう！



きゅうせい ここのとん ほし  
九ぼう星（九つの尖がり星）の

ステンド・ガラスの作りかた

ざいりょう  
材料

いろもぞうし 1まい (好きな色)

色セロハン紙 数枚 (色とりどり)

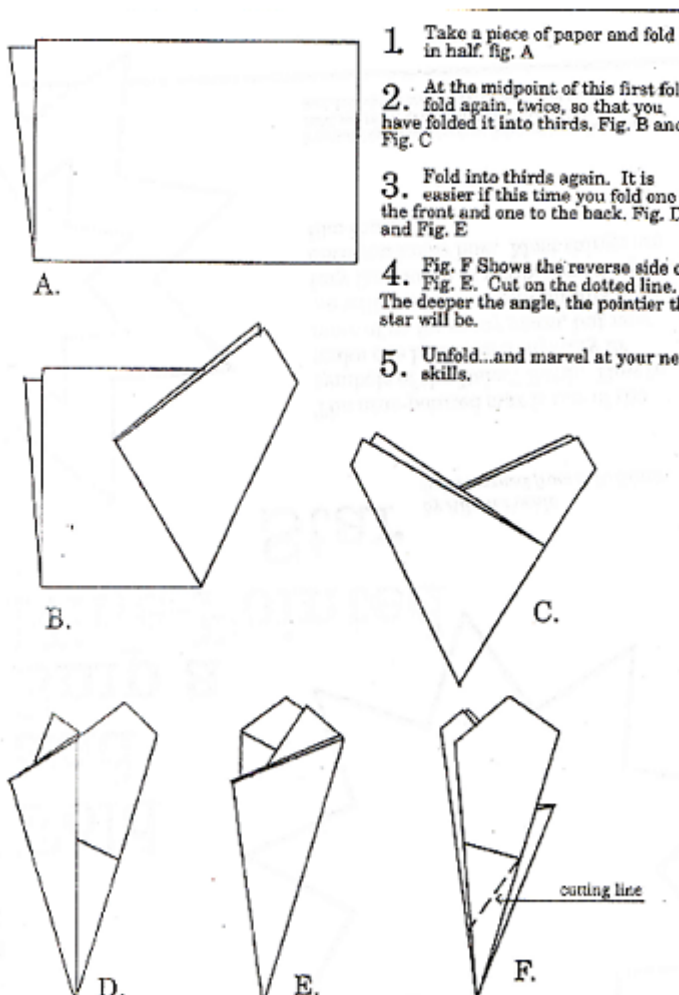
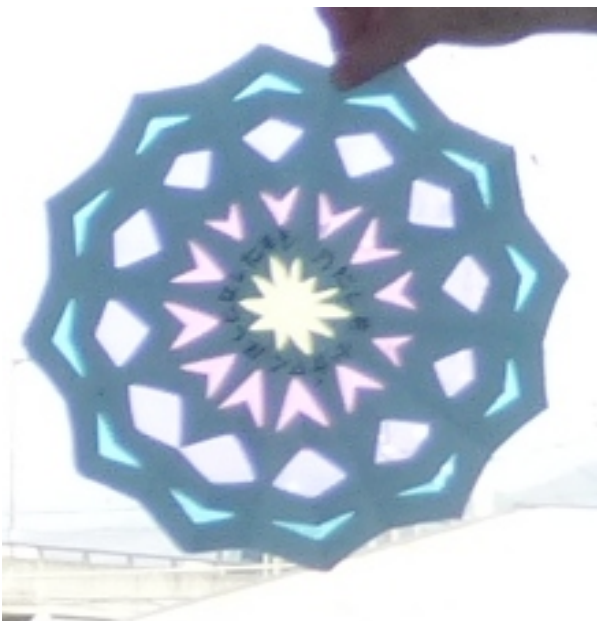
はさみ のり テープ

1. 最初にサイト、Youtube: <https://www.youtube.com/watch?v=HIvNEIOBjzE> をよく見て、(大きさ自由) の作りかたを習う
2. サイトで習った通り、色模造紙から九ぼう星をはさみで切り取る
2. 九ぼう星の内側に穴を開ける
3. 九ぼう星の中心に、「わたしを かがやく 星となしたまえ。」を書き入れる
4. 九ぼう星の裏側の穴に色セロハンをのりづけして、でき上がり
5. でき上がった、九ぼう星のステンド・ガラスを窓ガラスにテープではりつけてみる.



みぎのしやしん きゅうせい うら  
右の写真は九ぼう星の裏

ちゅうい いろもぞうし あな あ  
注意: 色模造紙に、はさみで穴を開けるのがむずかしければ、折り紙のようなうすい紙に変えるとよい





## 保護者のページ

何故人間に犠牲が必要なのか、お話の中の犠牲のたとえを使って、お子さんと一緒に考えてみたら如何でしょうか。犠牲によって求めたものは一体何か？その疑問を解くカギとなる次の引用文から答えを見つけ出して、お子さんに義性の必要性をわかりやすく説明できたらいいなあと思います。

種を土の中に植えれば、その種からやがて樹木が現れる。その種は、それから現れる樹木のために、自らを犠牲にするのである。種は外目には破壊され、消え失せるのであるが、犠牲にされたその種は、吸収され、樹木とその花や実や枝という形で現れるのである。。。。。。その種の完全性や祝福や特性や美は、枝や花や実において明らかになったことがわかるであろう。もし種が犠牲を払わなかったら、その樹木は存在しなかったであろう。

人は、自然界の特質や属性を、神の世界の特質や属性のために犠牲にせねばならないのである。たとえば、われわれが鉄という物質について考えてみよ。その特質について観察してみよ。それは個体で黒く、冷たい。しかし、この鉄が熱を受けると、それは、冷たいという属性を、火の特質である熱という属性のために犠牲にするのである。そうして鉄は個体、黒さ、冷たさといった属性を失う。その特質は、火の特質や属性のために犠牲となり、鉄は明るくなり、変化する。同じように、自然界の属性から断たれると、人は、鉄の特質が消えて代わりに火の特質が現れるように、その滅ぶべき領域の特質と必要条件を犠牲にし、王国の完全性を顕現するのである。・・・したがって、あらゆる啓発された神々しい者は犠牲の地位にある。

アブドル・バハ：「世界平和について公布」 pp.449 -

452

### クイズの答え

1) 「エイブの冒険」というビデオ・ゲームで遊んでいた。2) エイブは、もう一度牢に戻って、残りの仲間を全員、牢から助け出さなくてはいけなくなったから。3) 自分よりも、できるだけたくさんの人を幸福になるようにすべきである。4) 欲しいものがあるけど、もっと欲しいもののために、それをあきらめること。5) 明るくて赤い、熱くて形を変えるほど柔らかい性質。6) 濃くて黒い、冷たくて固い性質を犠牲にする。7) 何もない。8) 私たちは自分を空にして、神様の息吹を通すと、善い行いが出てくる。9) その人々を地獄から助け出すようにすべきである。10) 自分を空にして、神様の意志に従うレベルの犠牲。



No. 262  
2015年6月発行

ひるの星をカラー印刷するには以下のリンクにアクセスしてください。

<http://hirunohoshi.weebly.com/>

日本バハイ全国精神行政会

〒160-0022 東京都新宿区新宿7丁目2番13号

電話：03-3209-7521 FAX：03-3204-0773

ひるの星委員会：グレン・ロウ、バウデンカービー真己、平原静志、平原ルアナ

物語：平原ルアナ

和訳：平原静志

ぬり絵：[www.connectthedots101](http://www.connectthedots101)

写真：ウィキペディア、平原ルアナ、イヴァ・尊田、グレン・ロウ

さし絵：平本かおり、スティーヴ・パスカル、グレン・ロウ

テクニカルアドバイザー：グレン・ロウ

監修：野口メアリー